

4. 懐かしい史跡巡りの回顧

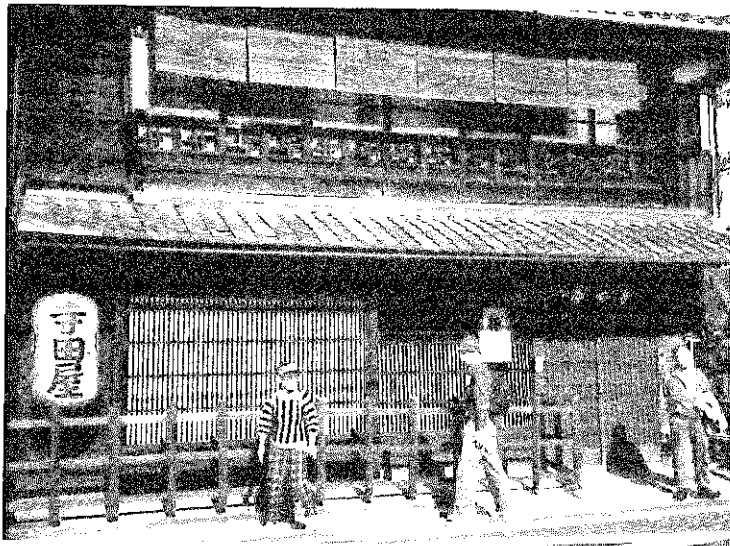
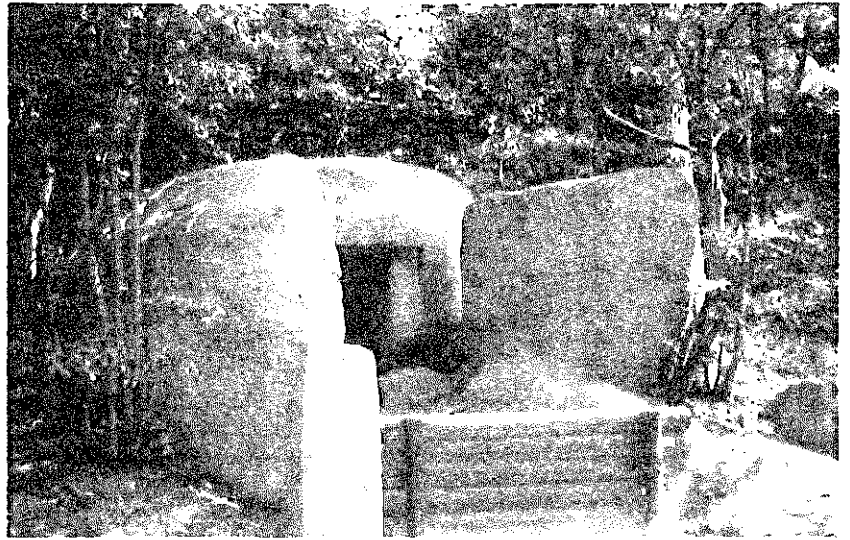
●第1回の『石の宝殿』 (寝屋川市)

古墳時代の後期に作られたもので、国の史跡として指定されている。

巨大な花崗岩をくりぬいて墓室を作った古墳としては、極めて希なものである。

明日香村にある鬼の雪隠、俎等と同じ横穴式であるが、蓋石と底石に別れておらず一体の物である所が大きく違う点である。

被葬者は不明であるがおそらくこの付近の豪族の墓であろうと思われる。



●第10回の『寺田屋』

(京都市)

明治維新に活躍した勤王の志士、坂本龍馬の定宿として知られ『維新は寺田屋の一室より生まれたり』とも言われているように、文久2年(1862)維新史の一騎を創った『寺田屋騒動』が演じられたところである。伏見に唯一軒、維新当時の舟宿が現存していることも珍しく、『寺田屋』の大提灯を軒先に吊して、旅館の面影を残している。

庭園にはお登勢明神がある。龍馬とお竜さんを結んだ寺田屋の女将お登勢は百年祭を記念して神と祭られ、若き男女(守り神)となった。

●第20回の『残念石』

(大阪市)

この石は、元和6年(1620)から始まる大阪城再築の時、天領小豆島(香川県)で削られたまま、垣材石としての念願かなわず、今なお数多く残されていることから、「残念石」と呼ばれている。

この大きな石は、石切り丁場で見つかり、昭和56年に小豆島青年会議所と大阪の青年会議所が共同で当時の海上運搬を想定、再現して小豆島より、この場に運び据えられたものである。

